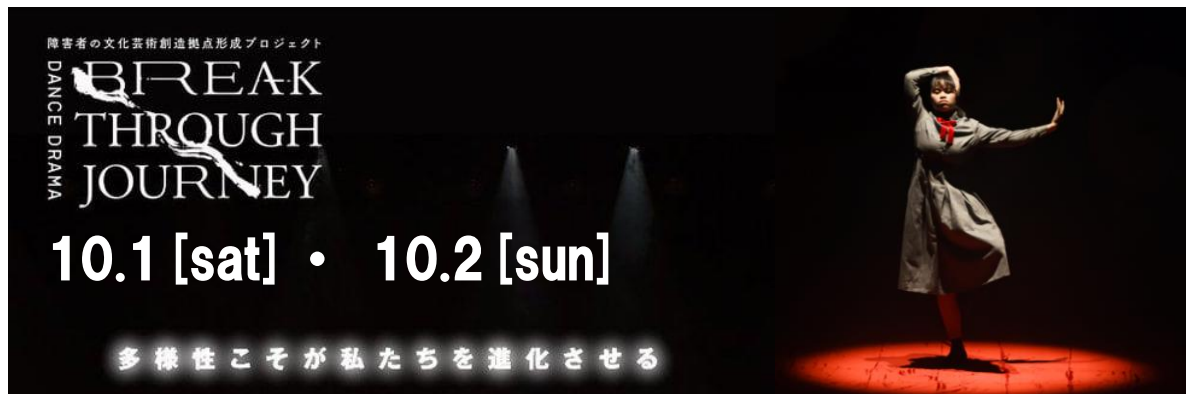


障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト

**DANCE DRAMA「Breakthrough Journey」**

上演のお知らせ！！



撮影：富田了平

**本作が、東京芸術劇場プレイハウスに登場！！**

国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）は、2022年10月1日（土）、2日（日）の2日間、東京芸術劇場プレイハウスにて、**DANCE DRAMA「Breakthrough Journey」**を上演いたします。

**日本とアジア、多様な人と文化の共創。新たな表現が今ここから生まれる**

舞台『花ト囃』やイマーシブシアター『Venus of TOKYO』など様々な舞台作品で知られるダンスカンパニーDAZZLEの長谷川達也を作・演出に迎えた本作品は、2021年1月に国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）で初めて上演されました。2019年のダンスオーディションからスタートし、当時新型コロナウイルス感染症拡大の中、日本（青森・東京・大阪・島根・高知・沖縄）、シンガポール、マレーシア、香港、台湾でのダンサーオーディションを経て、DAZZLE、森田かずよ、BOTANをはじめ、日本とアジアから選ばれた総勢80名を超えるメンバーが集結。

あれから約2年。国内外の演出家、振付家、ダンサー、スタッフ陣が再集結し、さらには新しい振付家やダンサー、ストーリーを加え、パワーアップして東京芸術劇場に登場します！！

総合演出・長谷川達也のもと、国内外の振付家が、日本の魅力とアジア諸国の特色を盛り込んだ振付を制作。多様性溢れる壮大なパフォーマンスが展開されます。どうぞご期待下さい。

本公演を東京芸術劇場でご覧になれる貴重な機会ですので、お見逃しなく。

★取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ]

国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）DANCE DRAMA 公演事務局（担当：松田、和田）

TEL：072-290-0962 FAX：072-290-0972 E-Mail: dancedrama@big-i.jp



公演概要

# DANCE DRAMA「Breakthrough Journey」 [全3回]

障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト



[日 時] 2022年10月1日(土) 13:00/18:00 開演

2022年10月2日(日) 13:00 開演

[会 場] 東京芸術劇場プレイハウス

[入場料] 一般 3,000円 / 高校生以下 1,000円

\* 移動支援・同行援護・行動援護の同伴1名無料

- 主 催：文化庁/独立行政法人日本芸術文化振興会
- 主催・実施主体：国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）
- 連 携：大阪府
- 共 催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場/フェニーチェ堺
- 協 力：ダンススタジオ ONEMOVE/SOCIAL WORKEERZ/M☆Stars/公益財団法人  
しまね文化振興財団/薫工ミュージアム 分室/NPO 蛸蔵/DANCE CREAM/  
Normalization Dance crew LIBERTY/林靖嵐聴障舞蹈団/城市当代舞蹈団/  
香港展能藝術會/DUA SPACE DANCE THEATRE/ART:DIS (Singapore) Ltd  
/一般財団法人日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS/特定非営利活動法人シア  
ター・アクセシビリティ・ネットワーク/CINEMA Chupki TABATA (シネマ・  
チュプキ・タバタ) /ホテルメトロポリタン

※ 本公演では、障害のある方への鑑賞サポート（音声補聴、音声解説、車いす席など）をご提供いたします。

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況等によって、出演者や公演内容は予告なく変更になる場合があります。



令和4年度日本博主催・共催型プロジェクト



## DANCE DRAMA「Breakthrough Journey」 公式 SNS

SNS サイトで随時、情報を発信します。  
また、これまでの企画をご覧ください。



Facebook



Twitter



Instagram

## 作品ストーリー



撮影：富田了平

貧しい生活を余儀なくされるアジアの少年。彼を支えていたのは、カメラマンになりたいという夢と、スマートフォンの画面の向こうに広がるインターネットの世界。だが、かすかな希望も、日々の現実押し流されてしまう。絶望と孤独。

ある日少年はダンサーを目指す少女の映像と出会う。それは夢を抱きつつ何も行動できない自分とは違い、夢に向かって一歩ずつ進んでいる姿だった。

そんな少女も自らの障害に悩みつつ、居場所を求めてもがきながら、その想いをダンスにぶつけていた。

海を越えて少女の魂に触れた少年は、旅立ちを決意する。

変わらない現実と、変われない自分を乗り越えるために。

## 障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクトとは

国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）の完全バリアフリーの環境と誰もが文化芸術活動を享受できるノウハウ、障害者の国際交流ネットワークを最大限に活用し、誰もが文化芸術を享受できる環境（「人」「ノウハウ」「技術」「場づくり」）の創出と開発整備の推進を、プロジェクトを通じて実現します。日本・アジアで活躍する振付家、プロのダンサーと障害のあるダンサーが協働し、わが国の自然や伝統文化等をベースにした魅力ある大型ダンスプロジェクトを実施することによって誘客力のある障害者の国際文化芸術拠点形成と共生社会の実現へとつなげます。

【2022：出演する障害のあるダンサー】\*重複障害を含む。

|        |   |           |   |            |   |         |   |
|--------|---|-----------|---|------------|---|---------|---|
| 自閉症    | 1 | 摂食障害      | 1 | 下肢欠損障害     | 1 | 多発性硬化症  | 1 |
| 適応障害   | 1 | 心因性眼瞼下垂   | 1 | 左上腕麻痺      | 1 | 高次脳機能障害 | 1 |
| 発達障害   | 1 | ダウン症      | 3 | 聴覚障害       | 6 |         |   |
| 軟骨無形成症 | 2 | 二分脊椎症・側弯症 | 1 | 指欠損障害・機能障害 | 1 |         |   |

## ▷日本国内7地域、海外2か国のダンサー 総勢70名によるパフォーマンス

### 【出演】

DAZZLE/DAZZLE アンサンブル、森田かずよ、BOTAN（梶本瑞希/かのけん/DAIKI/光陽師想真/なぎざ/麗華）、東野寛子（ほか、国内（青森、東京、大阪、広島、島根、高知、沖縄）ダンサー、海外（シンガポール、マレーシア）ダンサー 総勢70名

※招聘予定でした香港及び台湾のダンサーは、新型コロナウイルス感染症に係る入国制限等により来日ができなくなりました。本公演では、香港及び台湾のダンサーに代わって日本のダンサーが代役を務めます。

## 【スタッフ】

- 作・演出：長谷川達也（DAZZLE）
- クリエイティブ・ディレクション：飯塚浩一郎（DAZZLE）
- 音楽：林ゆうき／奥野大樹／桶狭間ありさ／山城ショウゴ／高木亮志／Luke Standridge  
／NATSUI KEISHI（高知拠点音楽）
- 照明：矢鍋智子（LIGHTING BIG1）      ○音響：岸智美（フリーランス オフィス）
- 映像オペレーター：革崎文      ○衣装：武藤銀糸
- 音声解説：佐川健之輔      ○舞台監督：孫左工門
- 企画・プロデュース：鈴木京子（国際障害者交流センタービッグ・アイ）
- 振付：RINKA（青森）、DAZZLE（東京）、akane（大阪）、上瀬真麻（広島）、田畑真希（島根）、小倉卓浩（高知）、新城由喜恵（沖縄）、Luqman B Asad（シンガポール）、Tang Sook Kuan（シンガポール）、Aman Yap Choong Boon（マレーシア）、Cyrus HUI（香港）、Ewen Chiu（台湾）

## 演出家プロフィール

### 長谷川達也（DAZZLE 主宰・ダンサー・振付家・演出家）

TRF、SMAP、V6、Mr.Children、ケツメイシ、BoA、東方神起などのライブ出演・振付の他、振付日本一を決める LEGEND TOKYO 初代優勝、TheatriKA'1 コンテスト優勝。また、演出家として国内演劇祭での最優秀作品賞、若手演出家優秀賞を始め、海外では韓国：アジア演劇祭、ルーマニア：シビウ国際演劇祭の他、中東最大のファジール国際演劇祭からの招聘、4部門ノミネート、2部門において受賞。東京国際フォーラムで開催された舞台「ASTERISK」において総合演出・主演のほか、歌舞伎俳優の坂東玉三郎氏が総合演出を務める舞台「バラレ」(赤坂 ACT シアター)の振付・主演を務める。2017年、カザフスタン・アスタナ国際博覧会出演。



撮影：飯野高拓

## 主な出演者・協力団体プロフィール

### DAZZLE（ダンスカンパニー／日本）

1996年、「すべてのカテゴリーに属し、属さない眩さ」をスローガンに掲げ、独創性に富んだ作品を生み出し続けるダンスカンパニー「DAZZLE」を結成。ストリートダンスとコンテポラリーダンスを融合した世界で唯一のスタイルを追求し、映画・コミック・ゲームなどのジャパニーズカルチャーの要素を積極的に取り込んだ物語性の強い作品を創り上げている。ダンスエンターテインメントの日本一を決める「Legend Tokyo (2011)」にて優勝した他、代表作

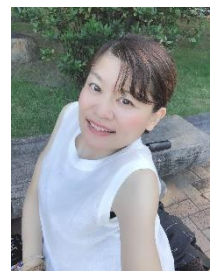


『花ト囃』は演劇祭「グリーンフェスタ」にてグランプリ・若手演出家コンクール優秀賞を受賞するなど、ダンスのみならず演劇界からも高い評価を獲得。海外公演も積極的に行い、「SAMJOKO アジア演劇祭 (2010 韓国)」や世界三大演劇祭の一つである「シビウ国際演劇祭 (2011 ルーマニア)」、中東最大の演劇祭である「ファジール

国際演劇祭（2012 イラン）」で上演。スタンディングオベーションを巻き起こし、「ファジル国際演劇祭」では審査員特別賞・舞台美術賞の二冠を受賞。2015年には、歌舞伎俳優で人間国宝の坂東玉三郎氏とのコラボレーションを行う。近年はロンドン・ニューヨークなどで人気を博している体験型公演形式であるイマーシブシアターに取り組み、日本での先駆的な存在として多数の作品を発表。DAZZLE主催の廃病院を舞台とした「Touch the Dark」（2017）、マルチエンディングを導入した「SHELTER」（2019）のみならず、ワンピースタワーとのコラボレーション作品「時の箱が開く時」（2018）、京都南座で開催した「サクラヒメ」（2020）など新しい体験を提供する作品を数多く生み出している。また、2021年6月に日本初の常設型イマーシブシアター「Venus of TOKYO」を開業（お台場ヴィーナスフォートの閉館に伴い2022年3月27日に閉業）、10か月間（全877公演）毎日上演し、あらゆる業界から注目を集めた。

## 森田かずよ（ダンサー・俳優）

先天性の障害（二分脊椎症・側弯症など）を持って生まれ、18歳より表現の世界へ。自分の身体と向き合い、表現の可能性を日々楽しく考えながら、俳優&ダンサーとして活動。シンガポールで開催された日本財団・ユネスコ主催「True Colours アジア太平洋障害者芸術祭」、東京2020パラリンピック開会式に出演。神戸大学人間発達環境学研究科修士課程修了。近年は障害のある人や市民参加のダンス公演の演出、ワークショップ講師なども行う。



## DUA SPACE DANCE TEATRE（ダンスカンパニー／マレーシア）

1998年にAnthony Meh（アンソニー・メイ）とAman Yap（アマン・ヤップ）によって設立されたコンテンポラリーダンスカンパニー。様々なコミュニティにおけるダンス創作や、オンラインを通じた配信を行い、その芸術的な可能性を拡大し続けている。COVID-19パンデミック下には、オンラインパフォーマンスやダンスビデオ等を制作し、インターネットを通じてダンスの情熱を継続させている。2022年5月には、市内のアーティストやダンサー達と協力し、「Puchong Community Art Festival」を立ち上げ、開催している。



ウェブサイト：<https://www.duaspace.com.my/>

## ART:DIS (Singapore) Ltd（シンガポール）

1993年に、芸術による障害者の学びの創出と自立支援を目的に設立された団体。以前はVery Special Arts Singaporeとして知られており、障害者が自己表現し、自信を持ち、コミュニティの一員となるためのプログラム、プロジェクト、展示会、公演等を開催している。

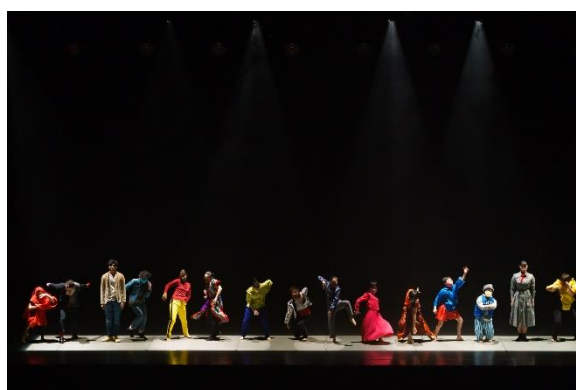
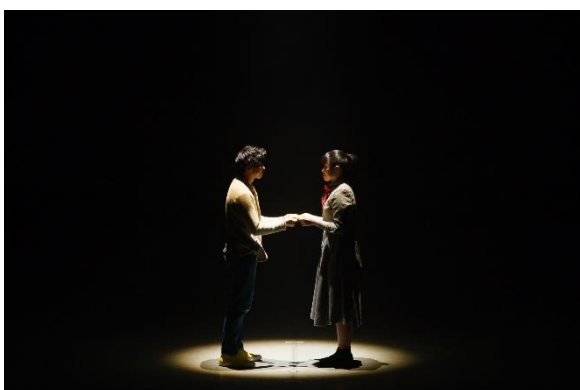
ウェブサイト：<https://artdis.org.sg/>



★その他ダンサー、協力団体等の情報については、国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）担当者までお問合せください。

## 2021年公演の舞台写真

撮影：富田了平



★本公演は再演です。上記以外にも、宣材として2021年公演の舞台写真をご使用いただけます。国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）担当者までお問合せください。

### 国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）とは

「国際・障害者の十年（1983～1992）」を記念して、全国の障害者の「完全参加と平等」の実現を図るシンボリックな施設として、2001年に国が大阪に設置。施設内には、多目的ホールや研修室、宿泊室、レストランを備えています。障害者の芸術・文化・国際交流活動の機会を創出し、障害者の社会参加促進をめざします。